

とーりまかし

別冊

研究年鑑 2019



6

テーマ

個人と地域と社会の進化を
創発する方法論

コクリ！ メソッド2018

研究員

三田 愛
さんだ あい

日本ではさまざまな方法で地域づくりが行われているが、主な手法は4つに整理できる。

- ①他地域の成功事例を横展開する
- ②地域内の「異端児」や地域外の「よそ者」が地域リーダーとなる
- ③地域外の企業などとコラボレーションする
- ④地域内対話によって地域を盛り上げる

いずれの方法も有力で、一概にどれが良くどれが悪いとは言えない。しかし、これら以外の「第五の方法」もあるはずだ。それを生

み出すことで、地域づくりを一層豊かにできるのではないか。その想いで進めてきたのが、2016年末から始めた「コクリ！2.0」だ。

コクリ！2.0の手法によって生み出したいのは、「一人ひとりが自分なりの使命に従って、持続的・主体的にチャレンジし合い、その地域らしいクリエイションを起こしていく地域コミュニティ」である。そのために磨いてきた「コクリ！メソッド」の最新バージョンを紹介する。

研究員
三田 愛
さんだ あい

第1章 目的

社会進化創発の方法論を探究

コクリ!2.0が目指すのは、次の3つを同時に実現することである。

①「地域コミュニティ」の創造

実証実験を行う各地域に、自ら変わり続ける力を備えた地域コミュニティを創ること

②「コクリ!文化」の醸成

コクリ!メンバー(コクリ!に積極参加するメンバー)を中心に、豊かなコ・クリエーション文化を備えたコミュニティを創ること

③「社会の進化」の創発

コクリ!の場の参加者全員で集散的なひらめきを生み出し、社会の進化を起こすこと

このなかで、コクリ!2.0が最も重視するのは、社会進化の創発だ。本稿では、地域コミュニティの創造、コクリ!文化の醸成を進めると同時に、社会進化創発の方法論を探究するなかで見えたものをお伝えする。

第2章 方法

研究と実証実験の両輪でプロジェクトを推進

コクリ!2.0では、研究と実証実験の両輪でプロジェクトを進めている。

①研究：研究メンバーが、勉強会や探究などを通じて地域変容・社会変容をいかに起こすかを研究し、新たな仮説を立案。

②実証実験：研究仮説を検証する場として、実証実験を行う。2018年は5つの実証実験を実施(表1)。そのうち、「GI探求ジャーニー in 海士町」の詳しい内容を紹介する。

なお、研究・実証実験は以下の研究メンバーと進めている。●嘉村賢州氏(NPO法人 場とつながりラボhome's vi代表理事、東京工業大学特任准教授) ●太田直樹氏(前総務大臣補佐官、New Stories代表) ●橋本洋二郎氏

(株式会社ToBeings代表取締役社長) ●山崎蘭加氏(華道家、ハーバードビジネスレビュー特任編集委員) ●太刀川英輔氏(NOSIGNER代表・慶應SDM特別招聘准教授)

表1 コクリ!2018の主な実証実験概要

GI探究デイ	
日時	2018年3月22日
場所	リクルートライフスタイル会議室
参加者	内閣官房、海士町・宮崎・西粟倉・神戸・京都・新潟等の地域リーダー/地方行政、メーカー、NPO、大学教授、シンクタンク、クリエイター等34名
ファシリテーター	山崎蘭加氏、嘉村賢州氏、三田愛

コクリ!研究合宿	
日時	2018年6月8~10日(2泊3日)
場所	保健農園ホテルフ山梨
参加者	海士町・西粟倉・京都・小布施・塩尻等の地域リーダー/地方行政、大学教授、大企業経営者・役員、出版、クリエイター、華道家、教育、NPO、財団等24名
ファシリテーター	後藤拓也氏*1、山崎蘭加氏、橋本洋二郎氏、嘉村賢州氏、三田愛

GI探究ジャーニーin新富町	
日時	2018年7月14~16日(2泊3日)
場所	宮崎県児湯郡新富町
参加者	新富町メンバー20名(財団、行政、農家(ライチ・きゅうり・へべす・ピーマン等)、お茶屋、町長、前町長、コクリ!メンバー(全国の地域リーダー、企業経営者、NPO、コーチ、出版、教育、大企業等))30名
ファシリテーター	土屋恵子氏*2、嘉村賢州氏、三田愛

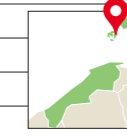
GI探究ジャーニーin海士町	
日時	2018年9月14~16日(2泊3日)
場所	島根県隠岐郡海士町
参加者	海士町メンバー30名(行政、漁業、高校、塾、観光協会、企業、ホテル、町長、副町長等)コクリ!メンバー(官僚、全国の地域リーダー、大企業、コンサルタント、大企業経営者、教育、NPO、クリエイター等)30名
ファシリテーター	齊藤由香氏*3、太刀川英輔氏、嘉村賢州氏、三田愛

コクリ!キャンプ2018	
日時	2018年11月10日
場所	巨福山 建長寺(鎌倉)
参加者	地域リーダー、首長、官僚、企業、大学、NPO、メディア、クリエイター、ダンサー、教育、等全国から集まった多様な110名*4
ファシリテーター	橋本洋二郎氏、土屋恵子氏、山崎蘭加氏、後藤拓也氏、太田直樹氏、嘉村賢州氏、三田愛



GI探究ジャーニー
in
島根県 海士町 あまちょう

場所	島根県隠岐郡海士町
日時	2018年9月14~16日
参加者	コクリ!メンバー約30名、海士町メンバー約30名



島根県海士町で2回目のコクリ!の場
コクリ!メンバー約30名と海士町メンバー約30名が3日間にわたって対話した。

2018年9月、隠岐諸島の1つ中ノ島の島根県海士町で、「GI探究ジャーニーin海士町(第2回コクリ!海士)」を開催した。2017年4月の「第1回コクリ!海士」に続く、海士町での2回目の場だ(第1回は「とーりまかし」49号に掲載)。町外から参加したコクリ!メンバー約30名と、海士町内のメンバー約30名が集まって対話を行った。

1日目~2日目午前
海士と仲間と自分の旅路を辿り、「今」に飛び込む

1日目は、コクリ!メンバーが昼に海士町に到着した後、午後に「ストーリーテリング」の時間を取った。5~6名が1チームとなって、仲間に自分の「根っこ」を語ることで、自分と仲間の「根っこ」につながり、恐れを超えて未知に踏み出すワークだ。2日目の午前中は、いくつかに分かれて海士町のフィールドワークを行った。コクリ!メンバーが海士の仲間の「今」に飛び込んで対話し、仲間の「根っこ」へのつながりを深めていった。

- 自己探求
- 自己変容
- 信頼構築



2日目午後
潮目を捉え、進化する

2日目の午後は、コクリ!メンバーの一人齊藤由香氏のファシリテーションで、「身体ワーク」や「7世代ワーク」などを実施し、システムを感じ取った後、太刀川英輔氏の案内で各自が「進化思考ワーク」に取り組み、GIクリエーションを起こしていった。

- 思考以外の知恵の活用
- システムセンシング
- GIクリエーション



3日目
その先に向けて

3日目は、2日間を振り返りながら、お互いの今とこれからについて、チームメンバーとダイアログ。その後、プロアクションカフェ(具体的なアクションを生み出すための対話の場)を行い、それぞれがこの3日間で創造したアイデアやプロジェクトを応援しあった。

- 自己変容
- 信頼構築
- GIクリエーション



*1 後藤拓也氏
人財・組織開発コンサルタント/講師・ファシリテーター
*2 土屋恵子氏
アデコ株式会社取締役
ピープルバリュー本部
本部長/モナド代表
*3 齊藤由香氏
翻訳・ワークショップ
ファシリテーター
*4 参加メンバーは
サイトに記載している
http://cocre.jalan.net/
cocre/camp/cocre_
camp_2018member/

第3章 **結果**

**コクリ!2.0の中核となる
 コ・クリエーションプロセスが完成**

2018年、コクリ!2.0では、研究での仮説立案と実証実験を何度も繰り返した。その結果、コクリ!2.0の中核的な手法として、社会進化を起こすための「コ・クリエーションプロセス」を編み出すことができた。また、そのプロセスは、「SPTいけばな」「進化思考」という2つの具体的方法にもつながっていった。ここでは、その経緯と内容について紹介する。

社会進化のコンセプト・キーワード・プロトタイプを次々に生み出す「コ・クリエーションプロセス」

社会進化を起こすためのプロセスとして理論・構造を整理し「コ・クリエーションプロセス」と名付けた(図1)。これは、研究年鑑2018で紹介した「場づくりの6つの要素」や「コク

リ!7ヶ条」を発展させたものである。このプロセスは、大きく「未分化プロセス」「GIクリエーションプロセス」の2つに分かれている。順に説明していく。

①未分化プロセス

コ・クリエーションプロセスでは、まず参加者の「未分化」を行う。

「未分化」とは、iPS細胞などの「未分化細胞」から来ている言葉で、自分の心の中にあるさまざまな境界を取り外していくことを指す。具体的には、次の3つがある。



コクリ!の場の大部分は対話の場

図1 コクリ!メソッド2018 (GIを探究するコ・クリエーションプロセス)



一度の場で、これだけの「集合的なひらめき」が生まれる

①個人の未分化:普段の役割を溶かし、何にでもなれる状態になること

②仲間との未分化:「あなたがわたしでわたしがあなたの状態(自他非分離)」になり、仲間たちの喜怒哀楽や苦しみなどを感じ取ること

③システムとの未分化:世界やシステムの一部として、世界の声、歴史や未来の声に耳を澄ますこと

未分化プロセスでは、参加者にこの3つの未分化を通過してもらうことを目指している。そのために、〈自己探求〉〈自己変容〉〈信頼構築〉〈思考以外の知恵の活用〉〈システムセンシング〉の機会を用意した。

〈自己探求〉

未分化プロセスでは、まず自分の「根っこ」とつながることを重視。根っことは、私たちの源であり、生まれてきた意味、自分の使命だ。私たちは、普段は自分の根っこを意識せずに生きている。コクリ!の場では、参加者に根っこにつながってもらうために、最初に必ず、普段の役割をいったん横に置いて、心の深い部分にある願い・祈り・苦しみ・葛藤などと静かに向き合い、それをきっかけにして、自分の根っこを探る時間を用意。

これは、言い換えると、「自己探究」の機会だ。これまで知らなかった自分の想いや、新たな自分の使命に気づくことが、この後の自己変容、信頼構築、GIクリエーションなどに

大きな影響を与える。

〈自己変容〉

コクリ!2.0が最も重視することの1つに、参加者一人ひとりの「自己変容」がある。なぜなら、個人が安全地帯を抜け出して、未知の自分にチャレンジし、「予想だにしない未来の自分」に出会っていくことが、地域変容・社会変容の大きな力となるからだ。「恐れを超えて、未知に踏み出そう」は、コクリ!が極めて大事にするメッセージだ。

私たちはよく、地域が変わる、社会が変わるといいますが、実際は「個人が変わる」のだ。地域変容・社会変容は、個人変容の積み重ねで起こる。遠回りに見えるが、一人ひとりを変えていくことが、地域の「変わり続ける力」を高めることに直結する。

〈信頼構築〉

コクリ!の場では、自分の根っこの想いを仲間たちと共有する「ストーリーテリング」の時間を長めに確保。仲間と根っこでつながることが、その主な目的だ。

言い換えると、コクリ!2.0では、自己探究・自己変容に加えて、「信頼構築」も同時に行う。そうすることで、参加者たちは単に仲良くなるだけでなく、2泊3日の短期間で、「ともに進化する同志」になっていく。

どのような地域も、キーパーソンの信頼構築が十分でないことが多い。キーパーソンが繋がっていないために、地域変容がうまくいかないという話もよく耳にする。コクリ!の場では、その信頼構築を互いに自己探究しながら行う。そうすると、強く深い絆が生まれる。これが、地域変容の原動力になる。

また、自己変容をすると、地域で認められることが多い。「アイツは変わった・成長した」という言葉は、地域ではプラスに働く。地域内の信頼構築が十分なら、ただ一人のポジティブでも変容が広く影響を及ぼすこともある。その意味でも、自己変容と信頼構築を同時に進めることに大きな意味がある。

コクリ!の場合、それを地域外のコクリ!メンバーも加えて行うため、より面白く、刺激的で、複雑な相乗効果が生まれることが多い。

〈思考以外の知恵の活用〉

コクリ!2.0のプログラムでは、身体を使うワークを多数実施。多様な身体ワークによって、参加者は身体感覚を取り戻していく。コクリ!の場の大きな特徴だ。

身体ワークが多い理由は、「身体の声」、つまり身体から湧き出てくる喜び・楽しみ・幸せ・違和感・恐れ・不安・怒りといった感情に気づくことが、自分を変え、未知に踏み出していく上で極めて重要だからだ。「身体の声」は可能性の扉なのである。

〈システムセンシング〉

コクリ!の場では、「自分を巡る大きな環に想いを馳せよう」という言葉のもと、先人が紡いできた歴史や遠い未来を感じる時間も多く設けた。例えば、インディアンの智慧から生まれた「7世代ワーク」は、7世代先の未来人になりきり、現代人と対話するワークである。

こうした時間を経て、参加者は自分が命のボタンをつないでいること、長い時間の流れの中で生きていること、生命・自然・経済・産業のすべてがつながり、互いに影響しあっていることなどに改めて気づく。根っこにつながるだけでなく、一方で自分や地域を包む大きなシステム全体を感じ取る(システムセンシングする)ことで、自分の使命が明確に見えてくることが多い。



コクリ!2.0では身体ワークをよく行う

②GIクリエイションプロセス

未分化プロセスが終わったら、次に、未分化状態になった参加者たちが、対話のなかから「集合的なひらめき」を生み出し、そのひらめきを社会の進化につなげていく場を用意。コクリ!2.0では、この集合的なひらめきを「ジェネレイティブ・インテンション(GI)」という造語で呼んでいる。「GIクリエイションプロセス」で目指すのは、GIを次々に生み出すことだ。これが社会の進化の種、原動力となっていく。

GIクリエイションプロセスでは、まず「集合的無意識のなかに、次の時代のうねりがある」ことを感じる必要がある。このうねりを感じるために、多数の人々の無意識の願い・祈り・苦しみ・葛藤、つまり「時代の声なき声」に耳を澄ます。なぜなら、そのうねりは、確かにそこにあるのだけれど、まだ言葉や概念にはなっていないからである。

うねりを感じ取ったと思ったら、集合的なひらめきを形にするフェーズに入る。キーワードやコンセプトを創ったり、プロトタイプングで試してみたりする。

なお、GIクリエイションの効果を十分に引き出すには、未分化プロセスが欠かせない。未分化の状態を通過してから、クリエイションを行う必要がある。いったん未分化になるからこそ、自分と地域の底に眠る感情・想いに気づき、「自分らしい使命」や「その地域らしさあふれるアイデア」を発見・創造・実現することができるのである。

SPTいけばな、進化思考などの手法を実証実験から開発

次に紹介するのは、コ・クリエイションプロセスの実証実験を何度も繰り返すなかで生まれた2つの手法である。

●いけばなの美や調和を通して、分断や対立の解決の糸口を探る「SPTいけばな」

コクリ!が使う手法の1つに、「SPT(ソ-



山崎蘭加氏がSPTいけばなの作品に師範として手を入れる

シャル・プレゼンシング・シアター)」というものがある。SPTは身体ワークの一種で、何人かの参加者がそれぞれの役を持ち、言葉を一切使わずに、身体の動きだけである状況について演劇的に表現していくワークだ。これと同じようなことをいけばなで行うのが、「SPTいけばな」である。

SPTいけばなは、研究チームの一人で、華道家でもある山崎蘭加氏が中心となって開発したもので、チームで行うワークだ。

手順を簡単に紹介すると、まずチーム内の誰かのケースを取り上げて、そのケースで起こっている問題の構造を、花を使って表現してもらおう。たとえば「ある会社の新規事業が行き詰まっている」という課題について、「桜=社長」「ピンクマム大=プロジェクトマネージャー」というように、それぞれの花に役割を与えて、花をいけた場所やいけかたで関係性を表現してもらおうのだ。その際、いけばなのルールを横に置き、ケースの問題構造を表現することに集中してもらおうことが重要だ。

その上で、2回目は、1回目の作品をいったん忘れて、あくまでも美しさと調和を大事にしながら、全員で改めて花をいけてもらう。そうすると、不思議なことに、問題の構造や解決の方法が見えてくるのだ。

SPTいけばなは「システムセンシング」の手法の1つとして有効である。

●生物進化のプロセスを応用して、新しい価値を生み出す人を増やす「進化思考」

研究メンバーの一人、デザインストラテジストの太刀川英輔氏は、コクリ!を通して、自分の生まれ育ちに向き合い、ルーツを探求

していった。そのなかで、自身のデザイナーとしてのミッションもさらに深めていき、これまでの学び・経験の体系化を進めて生み出したのが、「進化思考」である。

進化思考とは、生物進化のプロセスを発想のメソッドに応用して、使用者の創造性を高め、社会が変わるような新しい価値を生み出す人を増やそうとする考え方だ。もう少し具体的に言うと、「関係」と「変異」を何度も繰り返すことで、無数のアイデアを生み出しつつ、関係性に立ち返ってアイデアを淘汰し続け、最終的に価値あるアイデアを選び残すプロセスの方法論である。そのために、解剖・生態系・系統・未来予測といった関係の手法、欠失・融合・代入・擬態・転移・変形・集合という変異の手法などを用意している。

太刀川氏は、その方法論を磨く場にコクリ!を選び、思考の奥にある意図についてコクリ!メンバーと対話を重ねた。その後、氏は「DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー」(ダイヤモンド社)に進化思考の論文を発表した。



太刀川英輔氏



発想を生み出す上で生物の進化を参考にするのが「進化思考」だ

第4章

考察

地域や地球のことを
本質的・長期的に考える人を増やしたい

8年前、地域の活力を引き出す研究を始めたときに、出発点にした想いがある。それは私たち一人ひとりが、この時代、この地球に生まれた意味、ギフト、魂の目的をもって、それぞれが根っこ(源)につながりながら生ききったとき、得も言われぬエネルギーが湧き続け、結果的に個人も地域も地球も、幸せで美しい姿になっていく、というものだ。

特に、コクリ！2.0のフェーズに入ってから強く感じているのは、天地とつながって、大きな自己から動くとき、「地球の願いが個人を通じて出現する」という感覚だ。そうした感覚をもつ人々が集まる場では、参加者の集合的無意識から「集合的ひらめき」が生まれる。コクリ！2.0では、それを「ジェネレイティブ・インテンション(GI)」と呼んでいる。

コクリ！から生まれた活動の1つに「風の谷」プロジェクトがある。都市集中型未来しか描けないことをディストピア的な世界と考え、代替案として「人が技術の力を活用し、自然と共存し、豊かに生きられる社会(風の谷)」を創ることを研究テーマとするプロジェクトだ。発案者の安宅和人氏(慶應SFC教授/ヤフー株式会社CSO)を中心に、約20名のメンバーが1年強で18回集まり、3回のフィールドワークを実施。慶應義塾大学SFCの学生も参加し、2019年は実証研究をする予定だ。

安宅氏は、2017年のコクリ！の場で、風の谷のアイデアが「降りてきた」と話す。ベストセラー『イシューからはじめよ』(英治出版)の著者であり、コンサルタント、科学者の経歴をもつ安宅氏は、コクリ！に参加したことで廃れるままの地方出身というルーツとつながり、故郷での講演などに取り組み始めた。そのなかで、ギフトと魂の目的が合致した生

き方を始めたのだ。私にはそう見える。

他にも、「個人が変わり、社会の進化につながる」動きがコクリ！メンバーから多数生まれている。いくつかの例を挙げる。

●映像クリエイター・田村祥宏氏(EXIT FILM)は、コクリ！の場を通して、否定的に捉えていた自分の人生に向き合い、社会的な課題を映像で扱う意味をより深いところまでつかんでいった。その成果の1つが、埼玉県横瀬町で行った、社会全体で教育への参加を実現するプログラム「横瀬クリエイティビティー・クラス」だ。都内のクリエイターと中学生を中心とした町民が主体的に関わる場を設け、中学生と作品を創作。学びの可能性を広げただけでなく、生徒とともに生んだ作品がいくつもの賞を獲得するという成果も残した。

●前総務大臣補佐官の太田直樹氏は、長く務めたポストン コンサルティング グループの仕事や、社会的に影響力の大きな企業の経営ポジションのオファーを断り、総務大臣補佐官の退任後に起業した。自身の会社では、セクターや地域を超え、未来を共創する取組みを事業化している。葛藤があり、決断後も自問自答が続いた。そのこともあり、2018年末、コクリ！の過去のワークを振り返り、自ら事業を起こすことが退任前に記されていたことに驚いたという。また、多くの場でファシリテーターとしての経験を積むなど、政治や経営の世界でパワーをもつ人物が、未知を恐れることなく変容するモデルとなっている。

この方々に共通するのは、「自分自身は何者か」を深く意識した上で行動を起こしている点だ。そのことが、短期的な利益や成果を手放し、地域や地球のことを本質的・長期的に考えることにつながっている。私は、そうした「あり方」こそが、共感共鳴する仲間を増やし、困難を乗り越える奇跡を起こし社会の進化につながっていくと信じている。そんなコ・クリエーション状態にある人物が増えていくことを願い、研究を続けていきたい。